

## 隅田川等における未来に向けた水辺整備のあり方（素案）に対する意見と回答について

意見募集期間：4月3日（月）～5月2日（火）

件数：9件（7名）

整理 番号	ご意見・ご提案	回答
1	<p>よくここまでまとめていただきました。</p> <p>特に、素晴らしいのは、「まちづくりの機会を捉えた水辺再生プロジェクト」というところ。まちづくりの機会は、何も東京都さんが計画的に進めたから始まるわけではなくて、タイミングはまちまち。その機会を捉え、水辺が再生されていくことに道筋をつけていただいたことにとても共感しました。</p> <p>また、河川の管理区分を超えて、まちとの連動を図っていくことが明記されていることも共感しています。</p> <p>この素案が実現されていくためには、この素案に139回表現されている「連携」が重要です。</p> <p>小台が交通結節点として描かれているところなども、ぜひ都市整備局交通企画課さんなどとも連携していただきたいですし、各沿川基礎自治体さんの都市政策との連携や民間デベロッパーとの連携も大切です。</p> <p>是非このまま進めてください。</p>	<p>第4章[今後の展開に向けて]（P.47）の中で、「水辺と街が一体となった「水辺の拠点」の創出には、沿川自治体が主体的に行うまちづくりの計画や取組、開発や舟運等の民間事業、地域住民による利活用等と連携していくことが不可欠」と記載しています。</p> <p>都は、庁内関係部局、沿川自治体のみでなく、民間事業者や地域住民と連携しながら、事業展開していきます。</p> <p>いただいたご意見は、今後の事業展開の参考にさせていただきます。</p>

2	<p>先日お亡くなりになられた音楽家の坂本龍一さんが生前に、神宮外苑の再開発で樹木の伐採に関して反対の意見を述べていたことを知りました。</p> <p>確かに再開発 = 樹木の伐採+コンリート化、という図式があり、政治家もそれに邁進する傾向が世界的にあるようです。</p> <p>しかしながらこの方程式には大きな問題があり、その一つが気温の上昇です。樹木の多い公園とかにいとわかるのですが、暑い日には植物の発する水蒸気が周囲の気温を下げて人間や動物が暮らしやすくなる構造となっています。</p> <p>したがいまして再開発の中身をよく検討してむしろ樹木を増やす方向で計画を立てて頂きたくよろしくお願い申し上げます。</p> <p>他方でソーラー発電の義務化とかも俎上に上がっている一方でコンリート化を進めるのは努力の相殺であって永久に良くなりません。新築住宅のソーラー化と併に植栽の義務化等も是非検討して下さい。</p>	<p>第 3 章[水辺のゆとりと潤いを活かした東京の顔づくりによる取組]の取組イメージとして、『居心地が良く歩きたくなる水辺空間の創出』に向けて、緑化の充実について記載しています。(P.27)</p> <p>いただいたご意見は、今後の水辺整備の参考にさせていただきます。</p>
3	<p>①首都高高架のライトアップ</p> <p>検討会においてもテラスの照明ライトアップは重要視されていると思いますが、両国エリアの首都高の橋脚のライトアップも併せて検討お願いします。</p> <p>首都高がある影響で暗くて煩くて閉塞感がありますが、ライトアップにより魅力的な空間にできると思います。国内では大阪でもライトアップはしておりますが暗くぼんやりしたライトアップです。それよりも上海の高速道路のライトアップのようなものを期待します。(上海 高速道路 ライトアップで検索)</p>	<p>いただいたご意見については、関係部署等と共有いたしました。</p> <p>今後、いただいたご意見や地域のニーズ等を踏まえ、夜間のにぎわい創出について検討していきます。</p>

<p>②総武線と京葉道路橋梁のライトアップ</p> <p>橋のライトアップは、東京都主導でやっていると思いますが、JR 総武線も国道である京葉道路のみライトアップから取り残されています。是非東京都主導で働きかけをお願いします。</p> <p>①②共に東京都の直轄じゃないことは認識していますが、補助金等で促すことはできるはずです。よろしくをお願いします。</p>	
<p>4</p> <p>隅田川の汚れは、富栄養化のためであり河川岸を親水性を高めても悪臭や水の色など快くウォーキングなどもできない。</p> <p>根本の原因を改善しなければ本来の川の良さを味わえないのではないでしょうか。</p> <p>富栄養化を改善するためには、水の中のコンクリートを滑らかな垂直護岸ではなく渚の効果がある凹凸護岸か自然石を積み上げるなどして酸素を水の中に吹き込む必要がある。</p> <p>それと飯田堀りの日本橋川の放流も問題があり、富栄養化を促進するだけだと思います。そこで飯田堀りを環境湖としてアオコを食べるヒメタニシや水質浄化をする葦などを使って再生を図り水の再生を行う必要があると思っています。そのうえで日本橋川にきれいな水を流していただければと考えております。高速道路の撤去も進み日本橋川に陽が差すことにより、さらに水質が改善されると思います。</p> <p>自然の力で再生するシステムを構築する必要があると思っています。</p>	<p>隅田川の水質は、下水道整備等により改善されており、近年は環境基準であるBOD 5mg/l 以下を達成しています。（隅田川流域河川整備計画（令和4年12月）第2節（水質））</p> <p>さらに、都では水質改善のため、堆積泥土のしゅんせつ等による水質の改善、地下鉄等からの湧水や他の河川からの導水などによる水量の確保・水質の改善に努めています。</p> <p>また、水質を改善し、人々が憩う外濠の水辺再生を図るため、都では『外濠浄化プロジェクト』に取り組んでおります。（「未来の東京」戦略 version up 2023（令和5年3月）戦略13 水と緑溢れる東京戦略）</p> <p>いただいたご意見は、今後の水辺整備の参考にさせていただきます。</p>

○居心地が良く歩きたくなる水辺空間の創出

両国出身で、40 数年前の隅田川周辺は臭く、暗く、浮浪者がいる怖い場所でした。子供のころは、近づいてはいけないうるせいの雰囲気がありました。今では隅田川テラスが拡張し、伸びたことで、ランナーや散歩する人が増えてうれしい限りです。対岸の蔵前、浅草にはお店も増え、人がいることで防犯にもなっているのではないのでしょうか？健康を軸としたお店の支援などをしていくのがいいかもしれません。ランニングステーションや、ビーガンカフェ等が賑わってくるのが理想的です。

○まちづくりと連携した河川整備の推進

飲食店のかわてらす（川床？）が、昨年できたこと、コロナが落ち着いたこともあり、蔵前周辺に人（特に女性）が増えた気がします。さらに民間と連携した土地の活用が進むことが望めます。今まで河川に関わった建築家やデザイナーをうまく利用し、外国人が訪れなくなるエリアになっていくべきです。もっと積極的に観光に東京都が介入していくのがいいのでは？都民からの税金増やすより、土地の利活用、商業の振興による収入を増やすべきでは？

○恒常的な利活用の仕組みづくり

残念ながら、イベントなどに会ったことがないです。水辺の安全性に配慮しつつ、積極的にイベントに貸し出すのはどうでしょうか？テレビで舟の運転ができる人がいないとの報道がありました。コロナで打撃を受け、一度離れてしまったので、屋形船が運航できないそうです。イベントと共に、屋形船とのコラボ企画をたてるのはどうでしょうか？隅田川テラスに電源だけ整備すれば、あとは規約を作ることで、場所を貸せるようになると思います。是非、活用してください。

○新たな事業展開・連携

○居心地が良く歩きたくなる水辺空間の創出

隅田川テラスの利用者数は、第 2 章[隅田川等における水辺整備に関する今後の方向性]の『隅田川テラスの通行者数の変化』に示すとおり、テラスの連続化や水辺の動線強化の取組により、歩行者数が増加しております。（P.17）

○まちづくりと連携した河川整備の推進

かわてらす<sup>®</sup>は、水辺の更なる魅力向上と地域の活性化を目的としており、引き続き推進していきます。

また、水辺のにぎわい創出事業に対して、都では施設整備やイベント事業に助成を行っています。（水辺のにぎわい創出事業費助成金）

○恒常的な利活用の仕組みづくり

地域の団体や民間による、隅田川のテラスや河川敷地を活用したイベントは開催されております。

また、第 3 章[水辺のゆとりと潤いを活かした東京の顔づくりによる取組]の取組イメージとして、『恒常的な利活用の仕組みづくり』について記載しており、中間支援組織の検討や情報発信の強化等についても検討していきます。（PP.31-32）

○新たな事業展開・連携

第 2 章[隅田川等における水辺整備に関する今後の方向性]の中で『防災船着場の活用』について記載しています。（P.21）

「災害時において、河川舟運が住民の避難や救急物資の輸送などの機能を有効に果たすための拠点となることを目的として設置されている。また防災力向上と水辺空

	<p>浜町にある船着き場や、高橋にある船着き場（防災船着き場？）は、恒常的に開放し、舟運を生かしていくのはどうでしょうか？高橋（清澄白河）と浅草、浜町（人形町）日本橋を結び、インバウンドを舟で循環させることで、都心部の交通を使わず多くの観光客を今それほど流入していない地域に呼び込めます。インバウンド 4000 万人超えるあたりには、人気観光地は飽和してしまいそうです。でも、東京はもっと受け皿がある。今、人気それほどない下町が活性するのは、そうした今ない交通インフラを活用した時だと思います。さらに、いざ災害時になったときにも有効に働くと思います。日常使っていないものは、災害時にも使えないでしょうし、使おうとも思いつかないでしょう。防災船着き場とインバウンド観光をセットで企画できるのがベストだと思います。</p>	<p>間の魅力向上のため、船着場の平常時利用（一般開放）については、隅田川沿いの 6 箇所を実施しています。</p> <p>しかし、平常時利用は受益者の負担を原則としているため、舟運ニーズの少ない場所では、進んでいない状況にある。今後、舟運による防災性の向上や地域活性化を進めていくためには、防災訓練や一般開放等の防災船着場の活用拡大に向けた検討を進めていく必要がある」と記載しています。</p> <p>いただいた各ご意見は、今後の事業展開の参考にさせていただきます。</p>
6	<p>隅田川等の表記には隅田川と繋がっている河川と運河が含まれ、東京の水辺の街づくりをテーマにする際に、これらの水路が担う役割は重要と考えられます。</p> <p>しかしながら残念なことに、本素案において当該部は、「都心の水辺回廊」「下町の水辺回廊」と記してありますが、これらの水路の具体的なあり方を評価し、記述したページが不足気味と考えます。</p> <p>下町回廊は住宅地と接するところも多く、しかもカミソリ堤防に仕切られた水路は街と水辺を賑わいで繋ぐことの難しさがあります。</p> <p>隅田川に比べて川幅がなく川テラスができない内部水路では、川沿いの道の整備を誘導していますが、水面に近づくことは難しい構造です。</p> <p>都心の水辺回廊には 400 年の江戸城の石垣と 100 年近い歴史を持つ関東大震災の復興橋などが数多く存在します。</p> <p>下町の水辺回廊にはさらに多くの復興橋がありますが隅田川につながるこれらの水路は干潮時と満潮時の潮位差が 2m あり、現在の殆どの観光</p>	<p>本あり方は、東京を代表する河川である隅田川を中心とした水辺のモデルとして、「未来の東京」の実現に向けた水辺整備のあり方についてとりまとめております。都心の水辺回廊や下町の水辺回廊についても、それぞれの特徴を踏まえて、取組を展開し、水辺を基軸としたネットワークを構築していくとしております。</p> <p>また、開発に合わせた川から繋がる汐入の整備については、低地帯の安全性の確保が前提となることから、現時点では難しいと考えています。防災船着場に至る水上輸送路については、平成 28 年に都が策定した防災船着場整備計画にて基本的な考え方を整理しており、河川の規模ならびに航行可能な船舶規模を踏まえ、大型船の航行する幹線航路、小型船の航行する支川航路と区分して設定しており、災害時に安全に通行できるよう必要な水深、航路幅を確保していきます。</p> <p>なお、第 3 章[水辺のゆとりと潤いを活かした東京の顔づくりによる取組]の中で、『新たな事業展開・連携』の防災意識向上への取組促進として、都が建造予定の防災船に関する記載を追記しました。（P.33）</p>

船は満潮時には 潜れなくなり航行可能時間が制限されてしまうのです。観光客に人気の屋形船は全く通れません。

目黒川を凌ぐ魅力的な桜の見物や、歴史と文化に育まれた水辺の街の魅力を知るためには船に乗り水面から楽しむのが一番なのですが、この水路に架かる橋を潜ることができる観光船があまりにも少なく、解決するためにはさらに低床な船の就航が必要です。

一方では新規の舟運事業者には、高額な係留費用がかかるマリーナ以外に、船を係留する場所が無いために参入できないことも障害です。

このような船が存在しないことは、被災時の支援のための内陸部に存在する防災船着場の活用にも影響があることを意味しています。

水面に関する事業は河川行政が誘導することで実現できるもので、例えば木場公園の一隅を利用するとか、公有地の活用が最善ですが都心で盛んに行われている川沿いの大規模再開発プロジェクトには公開空地に替わるものとして安全に関する基準のもと川から繋がる汐入の水面を認めるエビデンスを与えて、内部河川の航行に適した観光船の船溜まりができることを期待したいと考えます。

7

【防災船着場の被災時活用のあるべき姿 バリアフリー】

震災被災時に道路が混乱して通行が円滑に機能しない可能性は否定できません。そのため船を使った救援・支援活動の重要性が認識されていますが、その中でも優先度が高い役割は消防艇などを使い、防災船着場を拠点とした負傷者等の医療施設への緊急搬送があります。都心内部河川の神田川と日本橋川には5ヶ所の防災船着場があり、それぞれ救急医療に対して主要拠点の高機能病院が最寄りの場所にありますが、感潮河川で水面の高さが変化する河川に設置したこれらの船着場は固定式であったり、船着場にアクセスするルートに階段が存在し、ストレッチャーや車椅

防災船着場の機能や整備の計画については、平成 28 年に都が策定した防災船着場整備計画にて基本的な考え方を整理しております。

都が管理する船着場につきましては、傷病人の搬送や物資輸送のために、背後地にアクセスするために必要な幅員を有したスロープ等を整備することとしており、既に越中島等の船着場で整備済です。

一方、近傍においてスロープ等の整備が困難な場合は、テラス内の移動や管理用通路の移動も考慮し、後背地とアクセスできる経路を確保するもので検討していくと計画にて記載しています。

いただいたご意見は、今後の事業展開の参考にさせていただきます。

	<p>子の移動に対してバリアフリーになっていません。 早急な整備が望まれます。</p>	
8	<p>【閘門で囲まれた3区（江東区・墨田区・江戸川区）に跨る東部内部河川に船が係留されていない問題点】</p> <p>1995年に発生した阪神淡路大震災と同時に発生した火災で神戸の街は壊滅的な被害を被りましたが、この時船による救援や物資輸送に貢献した経験を受けて、国や東京都は都内に多数の防災船着場を整備し、現在では概ね150箇所にあつています。近年、東部内部河川においても護岸の耐震化整備が進めることで不法船も一掃され、見違えるようになりました。この内部河川にも20箇所を超える防災船着場が設置されています。政府の地震予知連絡会議では、近いうちに東京においても巨大地震が発生することが高い確率で予測されると発表していますが、閘門で仕切られた内部河川には船がありません。巨大地震が発生した際、閘門は安全が確認されるまで開閉する事にならないと予想されます。救援活動や道路の液状化による交通障害をサポートするためには河川に船を動かすことが必要で、その役割が大きいのではないのでしょうか。過去の震災や戦災で大きな打撃を受けた東京の東部・北東部地域は一部を除いて耐震化や不燃化が進み、過去のような壊滅的被害を被る可能性は大分低くなったと考えられます。しかし元来から軟弱地盤であることは変わりなく、特に昨今では地下水が戻り地盤が液状化する心配が高まっています。幹線道路で液状化が起こると陸上移動機能が極端に低下し、市民の行動ニーズが高い医療施設へのアクセスが可能かどうか不安になりますが、幸</p>	<p>いただいたご意見は、関係部署と共有いたしました。</p> <p>発災時における船舶による輸送等に関しては、東京都は船舶関係の団体等と輸送等に関する協定を締結するとともに、船舶の確保手順に関する運用ルールを事前に定めております。</p> <p>今後も、関係機関で情報共有するなど、災害時の応急活動の迅速化を図ってまいります。</p>

	<p>いこのエリアの病院の多くは防災船着場から距離が近く便利な位置にあります。移動機能を確保する提案として、東部内部河川に民間の観光事業船（係留の見返りとして事業者と被災時支援の協定を締結し、いつ起こるかわからない震災時に全ての船が停泊しているとは限りませんが、河川幅員の広い場所3箇所それぞれ4～5隻ずつ配備することを想定します）を係留させて、被災時の移動支援に役立てるシステムをつくるのが有効と考えられます。震災発生緊急時に、それぞれの船を運転するスタッフもいるとは限りませんので、協定書の中にスタッフが到着するまでは地域住民か地域企業に船舶運転資格者を育成して操船を可能にする事を明記し、定期的に訓練することで地域にとって安心が担保される事になります。政府要望でも被災時において地域企業の社員は発生直後から帰宅難民として移動することではなく、交通機関の安全等把握するまでは社屋にとどまり、直後混乱が一段落した後に帰宅することをルール化し、地域被災への支援を担うことが有効ではないでしょうか。</p>	
<p>9</p>	<p>これまで隅田川で取り組んできた活動の経験から、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流域各地に地域に愛着を持った団体が存在していること（若手が中心の団体も多い）</li> <li>・花見や祭り、花火等100万人規模が集まれるポテンシャルがあること</li> <li>・テラスで活動してみたいが、その方法がわからない</li> </ul> <p>といった地域特性と課題があると考えています。</p> <p>そのような隅田川で、以下について提案します。</p> <p>①使いたい人が使えるように中間支援窓口が必要と考えます。</p>	<p>①については、第3章[水辺のゆとりと潤いを活かした東京の顔づくりによる取組]の取組イメージの『恒常的な利活用の仕組みづくり』として、中間支援組織の検討を記載しています。（PP.31-32）利活用に関する関係者調整やワンストップ窓口、PR活動、河川還元等の役割について、検討していきます。</p> <p>②については、第3章[水辺のゆとりと潤いを活かした東京の顔づくりによる取組]の取組イメージの『まちづくりと連携した河川整備の推進』として、地域や民間と連携した河川施設の活用と記載しています。（PP.29-30）これらの検討を進め、地域の交流や活性化につながる水辺空間を創出していきます。</p> <p>いただいたご意見は、今後の事業展開の参考にさせていただきます。</p>



具体的には、テラス利用申請の一元化、申請手前のコンシェルジュ役、PRプロモーターといった役割が考えられます。

②日常的な居場所になるよう場をひらき、人をつなぐことが必要と考えます。

船着場や旧チケットセンターを開放し、様々な団体が活用できたらよいと思います。また、花壇及び周辺テラスを社会実験的に活用し、テラスでの景観を倒しむ花壇から、地域住民の生活スキルを高める場所としてシフトしていけるとよいと思います。具体的には、農作物を作れるようにし、地域住民やコミュニティースクール等と連携し「食育による地域循環の見える化」を実施する活用方法が考えられます。

このあり方やその後の取組によって隅田川という場所が、地域住民一人ひとりにとって、より生活に寄り添う存在になってほしいと考えています。私たちとしても、芸術活動によってそのことを地域の方が体感・実感できるように多様な実践を続けていきたいと思っています。